

1 単元 くらべてよもう 「じどう車くらべ」

2 指導観

- 本学級の子どもたちは、これまで「くちばし」や「うみのかくれんぼ」で挿絵と文を対応させたり、事柄の順序を考えたりしながら書かれていることの大体を読む活動を行ってきた。また、問いと答えという文型を学び、文末表現を手がかりに問いを見つけ、その問いに対する答えを確認しながら読み進めることができるようになってきた。そこで、事柄の順序に沿いながら、文や文章の中で、語と語及び文と文とのつながりについて考えることができるようになるこの期に本単元を取り上げ、事柄の順序に気を付けながら内容の大体を読んだり、違いを比べながら読んだりできるようにしたい。このことは、自分の考えを進んでもとうとする態度を育てる上からも意義深い。
- 本作品は、日常生活の中で目にすることが多く身近なものであることから、児童の興味・関心が高い乗り物を取り上げた説明文である。身近な自動車についての「しごと」と「つくり」の2つの問いに対して説明が2つの段落に分かれているため、構成がとらえやすくなっている。また、さまざまな役割をもつそれぞれの自動車が、その「しごと」のために、その「つくり」になっているのだということを文と文をつなぐ言葉を用いて分かりやすく説明している。さらに「しごと」と「つくり」を書き抜いて整理することで、事柄の順序に沿って比べながら読むことができる教材である。
- 本単元の指導にあたっては、事柄の順序に基づいて、それぞれのじどう車の「しごと」と「つくり」について追究する。また、それぞれのじどう車の「しごと」と「つくり」を比べることで、その「しごと」のためにその「つくり」になっていることを明らかにする。そして、写真や絵を手がかりに「しごと」と「つくり」を考えて、自分が興味をもった自動車の図かんづくりができるようにする。そのために、文と文をつなぐ言葉に着目して、「しごと」と「つくり」を関連づけながら読み進めていく。
 尚、本時指導にあたっては、「そのために」という接続詞や「～しごとをしています。」「つくってあります。」「ついています。」などの文末表現に着目し、クレーン車の「しごと」と「つくり」を書き抜くことができるようにする。その際、クレーン車の「しごと」と「つくり」の関係を具体的に理解することに不十分さがあると予想される。そこで、重い物を吊り上げるクレーン車の様子を動作化したり、実際に動いている映像をみたりして、クレーン車の様子を具体的に読み取ることができるようにする。そして、「クレーン車をつくった人へ言いたいことを書く」という観点で、自分の考えをまとめさせる。

3 目標

- じどう車の「しごと」や「つくり」に関心をもち、文と文をつなぐ言葉や文末表現に着目しながら意欲的に読み、学んだことを生かして図かんを作ろうとする態度を育てる。
- 事柄の順序に沿って、じどう車の「しごと」と「つくり」を比べながら読み、それぞれのじどう車が、その「しごと」のためにその「つくり」になっていることを読み取ることができる。
- 片仮名の語を正しく読んだり、片仮名で書く語を使った分を書いたりすることができる。

4 本単元の学習活動（11時間）

- 1 題名や挿絵に関心をもち、読みのめあてを確認する。 _____ 1
- 2 事柄の順序と挿絵を対応させて、内容の大体をつかむ。 _____ 1
- 3 じどう車の「しごと」と「つくり」について読み取る。 _____ 3
 - (1) バスや乗用車の「しごと」と「つくり」を読み取る。 ①
 - (2) トラックの「しごと」と「つくり」を読み取る。 ①
 - (3) クレーン車の「しごと」と「つくり」を読み取る。 ①本時
- 4 挿絵をもとに、はしご車の「しごと」と「つくり」を捉えて説明文を書く。 _____ 2
- 5 好きな自動車の絵本や図鑑から「しごと」と「つくり」を調べて自動車図鑑を完成させる。 4

